

西多摩医師会報

1986年4月1日

160号

発行所・社団法人 **西多摩医師会** 東京都青梅市西分3-103
編集委員・石井 好明 井村 進一 TEL.(0428)23-2171(代)
栗原 琢磨 小林 杏一
道又 正達 村山 正昭 渡辺 良友

昭和60年度 定時総会 新執行部選出さる

61.3.22

会長就任にあたって

分権と統一

会長 西村 邦康

陽春の候 会員諸先生方には益々御壮健のことと慶賀いたします。

去る3月22日総会に於て会長に選出され、75年の伝統ある西多摩医師会の会長の職を務めるにあたり、その職責の重さを痛感し、一言御挨拶申し上げます。

申すまでもなく会長職は、副会長・各理事の協力のもとに、先人の築かれた西多摩医師会の榮譽を守り、その伝統と事業の継承及び発展に務めるべき責務を負っています。

75年の歳月を経て、今日の発展をみた西多摩医師会の伝統は、先輩から引きつがれた、和の精神であり、その事業は、医の倫理に基づいた地域医療への貢献と、会員諸先生方の医療基盤の充実にあります。

そして会の運営方針は、この和の精神、即ち会員間の融和(会員の価値観の相違を認め多様化の中の統一)を医師会運営の根幹におき、急速に変動している社会への対応と、又変革した医療を求めている住民の期待に応える医師会事業を行うことです。即ち日本医師会・東京都医師会が現在重点事業としている地域医療・生涯教育に、西多摩医師会も真剣に取り組む、又住民から期待の多い福祉との学際的な在宅ケアシステム等にアプローチ

をしてみたいと考えております。

現在の医療環境を考えてみますと、目睫に迫っている高令者20%という急速な高令化社会の到来は、医学の進歩と相いまって、疾病構造の変化をもたらす医療の質を変えています。好むと好まざるによらず我々の行う日常の診療行為は、疾病治療から疾病予防管理へと変質を迫られております。現に今我々がやっている高血圧治療は、治療が期待される治療行為ではなく、むしろ高血圧の管理及びその合併症の予防と云う疾病予防管理の範疇に入っています。これは単に高血圧のみではなくその他の成人病の治療にも当てはまり、現在すでに我々の診療行為は疾病予防管理に変質しています。

この変質した診療行為(医療活動)は現在国がその充実を計り事業を推しすすめている老健法の保健事業の保健活動と全く同一のものです。

現在東京都は、超過密都市での保健事業の困難さによる保健事業受診率の低率をアップするため、日本の縮図と考えられ、比較的事業を推進し易い、西多摩地区に事業の拡充を計っています。西多摩の各自治体は当然都の指導のもとに保健活動を推進し、同時に住民の健康指向のニーズに応えるためこの事業の充実につとめています。

(2)

西多摩医師会も、ただ単に予防注射を実施する公衆衛生活動から脱皮して、この自治体・保健所が行う保健事業に積極的に関与し、この事業を発展させるのが、我々西多摩医師会の公衆衛生活動の当面の課題であります。

そしてこの事業の実施主体は、自治体の医師会と云うことになります。このように考えますと、各自治体ごとの医師会が、自治体と緊密な連絡をとり、その活動を推し進めていく、即ち自治体単位の医師会活動の充実が望まれます。

この自治体＝地域に密着した医師会活動が、西多摩医師会地域医療の眼目と考えます。西多摩医師会の役割は、自治体医師会へのサポート及び自治体間の調整にあると考えています。この医師会の役割即ち分権と統一が、三市五町一村と複数体の合体である、西多摩医師会のあるべき姿と思考いたします。

このように地域に密着した医師会公衆衛生活動

を実践することが、我々の活動をより身近なものとして住民に感じてもらい、住民の信頼を得ることになると考えます。

これが、ひいては現在云われている患者の大病院指向の歯止めにもなり、西多摩地区内での医療の充足（医療基盤の確保）につながるものと考えます。

以上これから2年間の医師会活動の一端を述べましたが、この他まだ重要な病診・病病連携など考えるべき問題が山積しております。執行部理事及び会員諸先生方の英知とお力添へによって、一つ一つ問題を解決処理していきたいと考えています。

このように考え運営する積りでいても、医師会は全員から遊離した独りよがりの執行部医師会に兎角なりがちなので、会員と共に歩み、築く、会の運営をするために、重ねて会員諸先生方の御叱声と御協力をお願いいたします。

副会長に就任して

大塚 渉

年功序列とは申せ、私如き者が、このような立場に立つとは考えもしなかった事です。

先日、役員の前顔合せの席上、自己紹介せよとの事で「私の任務は有能にして、かつ個性的な会長、副会長のプレーキになる事です。」と申し上げました所多くの拍手を頂戴致しました。この事は、私を推挙して下さった会員の先生方の思いを見た気が致しました。

さて、この度の改選に際して、会員先生方のお話を伺いますと、医師会で討議され、役員方がそれぞれの分野で奮闘されている問題が、会員の先生方に意外と知られていないという事に気が付きました。この事は大変重要な事だと思いました。会員の為の医師会なのですから、会員の皆さんが、関心を持って、会の活動に参加する。そんな会にしなければいけないと念じています。

昨今どこの医師会でも話題の中心は、「生涯教育制度化」の問題だと思います。その内容は、学術中心になるのは、異論のない所でしょう。

日医雑誌でも、この問題について、羽田会長が「 $\frac{1}{3}$ の先生方は何もしなくても勉強なされている。

次の $\frac{1}{3}$ の先生方は何か、ちょっと動機があればすぐ勉強するグループにお入りになる。残りの $\frac{1}{3}$ の先生方に対して、何とかしなくてはいけない」と申されております。又ある先生は「この制度化は勉強への動機づけだ」とも申されております。さしづめ、私などは、第二のグループに属するのではないかと考えておりますが。……学術部を中心とした先生方のご努力をお願いする次第です。

又「日医の生涯教育制度のガイドライン」の始めに「近代医学の進歩は、臓器指向の医療に拍車をかけ、医師の技術者の性格を強める側面がある」と書かれており、そんな反省から、「人間性を重視した医療の必要性が叫ばれ、人文科学的な学習をも包含すべきである」とも申しております。我が西多摩医師会の先生方の中には、すぐれた画家、素晴らしいエッセイスト、そしてスポーツの分野での達人等々多士済済です。文芸、絵画、音楽、スポーツそれぞれ得意のものをひらさげて医師の生涯教育と共に医師会活動に参画される又とない好機ではないでしょうか。

心房細動ある実年です。何とぞ皆様より、ジキ

タリス……等貴重なご助言を頂きまして、この二年間、責を果したいと念じております。よろしく

お願い申し上げます。

61. 4. 20

副会長に就任して

松原 貞一

この度の総会で副会長の大任を果すことになりましたが、浅学非才の身も顧みず立候補致しご推挙を頂きましたこと、いま更めてその責任の重さを痛感致しております。昭和49年理事の末席を継ぐようになって以来、専ら公衆衛生畑を中心に学術・広報・学校医などどちらかといえば現業部門の経験は積んで来ましたが、総括的な立ち場は未だ不馴れであり、今後は総務・経理方面を歴任、会務のベテランである大塚副会長の指導を得て、会長補佐という任の一端でも果すことが出来ればと、微力をつくして行く覚悟でいます。

近年時代の流れは益々速くなり、世のさまの移り変わりも目まぐるしく、台所からカマドが消えたと思う間もなく、嫁姑の立場は忽ち逆転、平均寿命が伸びたと手を叩いているうちに、未だ血も涙も出る人に早や(脳)死の宣告をせまられる時代となりました。国手といわれ、運動会では村長の隣に座す程の尊敬もうけ、我が城の中で静かに患者の治療だけに専念出来たのも今は昔、今では、それ予防疫種だ乳幼児健診だ、休日診療が終わったと思えば準夜か来、夜間が来る。老健法の成立と共

に更に忙しくなり、一般健診・がん検診・健康教育・健康相談、更には健康増進指導事業と目の廻る程。とても我が城で独り家業にいそしんでばかりはいられない時代になって来ています。仁術と思えど算術と罵られるが、世に思われる程には収入も上がらなくなり、幸いに業栄えたとしても税金という名の「働きの者に対する罰金」は情け容赦なく、健康を害して他界した同僚も稀ではありません。一国一城を自負してみても所詮は一匹狼、世の荒海からみれば漂う一枚の枯葉のような弱者であることには違いない。優遇税と呼ばれる程の恩恵もなく、医療費値上げと書きたてられる度に請求点数は減少、弱者せめて寄りそって身を護らねばと思う。情けないが医師会にはそんな一面も持たねばならず、ばらばらではいつか沈み行く運命にあることは我々自身身にしてみている筈。団結といって旗を振らないまでも、お互い仲よく手を握り、何かの時には頼りになる明るい医師会作りの為、会長補佐の一翼を荷うことが出来れば、身に余る光栄と考えています。

総務部長に就任して

足立 卓三

会長・副会長ともども総務部長は会報に抱負を掲げるのが慣例だから、と云われてペンをとったものの、私には総務部長として特別な考えがあるわけでもなく、途方にくれております。

私はこれ迄は総務部に入っておらず、仕事の内容も未だよく把握しておりませんが、総務部の先生方をはじめ諸先生のお力添えで何とかその日を過ごしているような状態です。しかし、会長、副会長はそれぞれ優れた方達ですので、医師会としての施策、行動には間違いは起り得ませんので、その意味では総務部長がボンクラでも大丈夫と思

っています。ただ逆に云うと、個性の大変強い先生方でもありますので、私のような凡人が中に入ると、いろいろ中和剤の役目をする事が重要なのかも知れません。

私としては西多摩医師会のような地区医師会は「和」が一番大切な事であると考えてきましたので、今後とも口先だけの「和」ではなく、なるべく多数の先生方に発言をして頂き、なるべく多数の先生方に参加して頂けるような、そんな医師会行事を出来るだけ沢山企画し、実行していくよう努力したいと思います。勿論、理事会等において

は真剣な議論が必要なことは言う迄もありませんが、その中でも議論の為の議論は排除し、終れば笑顔で解散出来るような、そんな雰囲気を作るよう裏方の仕事に徹すれば、それで私の役目はは

果せるものと考えています。

今後とも執行部の内外から御批判を受けると思いますが、私は私なりに努力していきますので、よろしく御願い致します。

時 報

昭和60年度定時総会報告

61. 3. 22

昭和61年3月22日(土)午後2時より昭和60年度定時総会が西多摩医師会館において開催された。出席者93名、委任状106名の提出があり、合計199名で全会員数266名中75%の出席率であった。

総務部長大塚渉理事の司会により開会が宣言され、議長団(内田議長、島田副議長、土田副議長)が登壇、総会の成立が確認された。議事録署名人は坂本保、松田三樹雄両会員。

開会挨拶(要旨) 瀬戸岡 進会長

ひと言ご挨拶申し上げます。今日は60年度の各部事業報告、61年度の事業計画、収支予算書など慎重審議をたまわらんことをお願い申し上げます。

60年度は各事業のほか58年に集大成がなった地域医療計画に、災害時の救護計画を加えて実情に即したものに改訂いたしました。老健法に関連しては、保健所の機能強化の一環としての健康増進事業に各位のご努力が傾けられております。

胃健診事業についても福生保健所に置く固定式の予定を可動式の検診車に転換し、へき地の地域医療向上のために一歩前進したと考えております。

60年3月には点数改訂がございました。また秋川には健康相談所ができました。夏になって、我々開業医に重大な影響をあたえる診療報酬非課税措置の撤廃という問題がございましたが、これには老人医療一部負担増額とあわせて反対の立場を明確にいたしました。

また地域医療計画につきましては東京都46地区医師会のなかで、60年12月20日の改正医療法の成立に先立ってできあがったことは我々の誇りとすところでございます。

顧みますと3期6年の間、会員各位から絶大なご協力を賜り誠に有難く感謝申し上げます。ここまでの道程は決して平坦ではなく難関、難問に遭遇したわけでありまして、56年12月の難局に際しては、良識ある大多数の会員各位のご支援により圧倒的な信任を得たことを支

えにして会長職を遂行してまいりました。

このような過程のなかで、58年11月には70周年記念事業、60年11月には三多摩医師会懇親会を盛大に行うことができましたことも忘れることができません。

さらに学校医、産業医の仕事につきましても担当理事のご指導により順調に発展しており、今後とも西多摩医師会発展のために会員各位のご協力をお願い申しあげて、開会のご挨拶といたします。

議 事

1) 報告事項

昭和60年度各部事業報告

2) 審議事項

昭和61年度各部事業計画

昭和61年度収支予算案

本会役員的一般選挙

副会長理事については定員2名のところ、大塚渉、松原貞一、江本虎雄会員の立候補があり、これについて山口、横田博、奥野会員を立合人として投票がおこなわれた。

当 選 者

会 長 理 事	西村 邦康
副会長理事	大塚 渉
"	松原 貞一
理事(病院)	石井 好明
" (互選)	井村 進一
" "	大塚 栄二
" "	川辺 隆道
理 事	足立 卓三
"	唐橋 善雄
"	栗原 琢磨
"	塩沢 永康
"	高木 直
"	林 実

理事 東 吉男
 " 官川 栄次
 " 湯川 文朗
 監事 今川 武
 " 内山 大
 " 近藤 肇

医道審議会委員 堤 次雄
 " 波田野洋夫
 " 葉山 侃
 " 平林 信隆
 議長 後藤 伸
 副議長 長 栗原 三省
 " 土田 守一

医道審議会委員 丸茂三千穂
 " 池田 聖
 " 小林 康光
 " 清水章三郎
 " 竹内 靖信

付記

立候補者3名欠員の理事選挙については、定款12条1項(3)を優先させ議決された。

村山

学術講演会

狭心症 60.10.18
 心筋硬塞 60.11.22

青梅市立総合病院内科部長
 坂本保己先生

狭心症

〈冠動脈の狭窄とは〉

狭心症の分類

— 起き方 —

労作狭心症・安静狭心症

— STの変化 —

古典的狭心症・異型狭心症
 ST下降 ST上昇

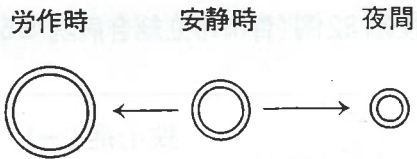
— 経過と予後 —

安定狭心症・不安定狭心症

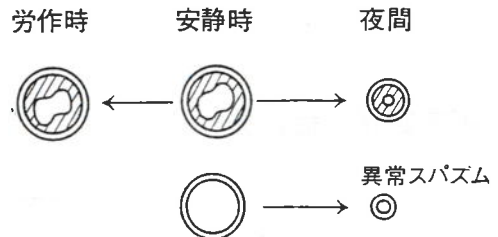
1ヶ月以上経過していて
 症状の安定した狭心症
 多くは労作狭心症

ほゞ1ヶ月以内に始った
 新規または増悪狭心症
 多くは安静狭心症

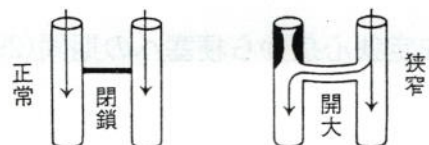
(正常心)



(虚血心)



バイパス(副血行路)



不安定狭心症 (Unstable Angina Pectoris)

〈狭心症の薬物治療〉

1. 臨床的な意味

心筋梗塞に発展する危険性が高い。

2. 定義(AHA, 1975年の要約)

- (a) 3週間以内に発症した新規の狭心症。
最も新しい発作は1週間以内に見られる。
- (b) 狭心痛の強さ、頻度、持続時間が増大し、
ニトロ剤の効果も悪くなったもの。
- (c) 心筋梗塞を示す心電図、血液検査結果が
ない。

3. 対策

入院による経過観察が望ましい。
一般的狭心症治療
血小板凝集抑制剤など(アスピリン等)併用。

1. 労作狭心症

病態：冠動脈硬化，狭窄

薬剤：心臓の仕事量を減らすものを使う

- (a) β -ブロッカー (心拍数↓, 収縮力↓)
- (b) カルシウム拮抗剤 (血圧↓)
- (c) ニトロ製剤 (血圧↓, 静脈圧↓)

2. 安静狭心症(異型狭心症を含む)

病態：冠動脈の攣縮(スバズム)

薬剤：冠動脈拡張(スバズムをとる)するものを使う

- (a) ニトロ製剤 (主冠動脈拡張)
- (b) カルシウム拮抗剤 (スバズムをとる)

3. 狭心症一般(1.2.共通)

病態：冠血流量の減少

- 薬剤：(a) 一般の冠拡張剤 (バイパス促進)?
(b) アスピリンなど (血栓予防)

狭心症と心筋梗塞

心筋梗塞82例(青梅市立総合病院 S58.1.1~S60.7.19)

既応	心筋梗塞	16%	狭心症(-)	48%	狭心症(+)	46%

不安定狭心症の先行	安定狭心症	11%	不安定狭心症	35%

不安定狭心症から梗塞への期間(29例)

4W	2	2W	24h
?	?	?	?
	4	24h	
	W	62%	
18%			
		10%	10%

〈狭心症診断の注意〉

1. 胸痛

- (a) 訴え方. 指先で場所を示すときは否定的
いつも痛い, チクチクする等は否定的
- (b) 起き方. 労作によるか (排便, 入浴も含む)
安静時か, 夜間か
- (c) 終り方. ニトロ製剤の効果, 労作休止で治るか
数分~15分



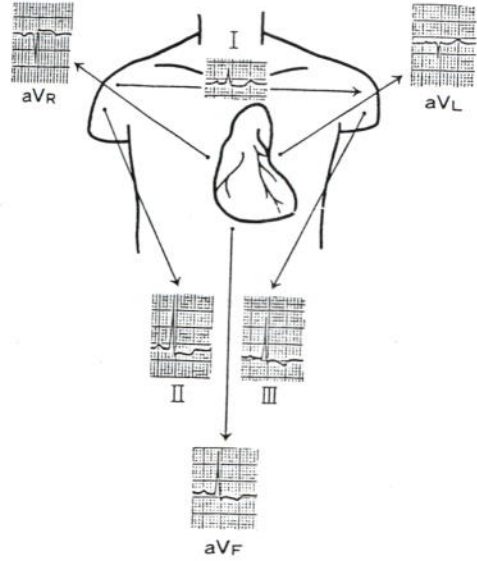
2. 心電図

負荷, 長時間記録, 正常型との鑑別

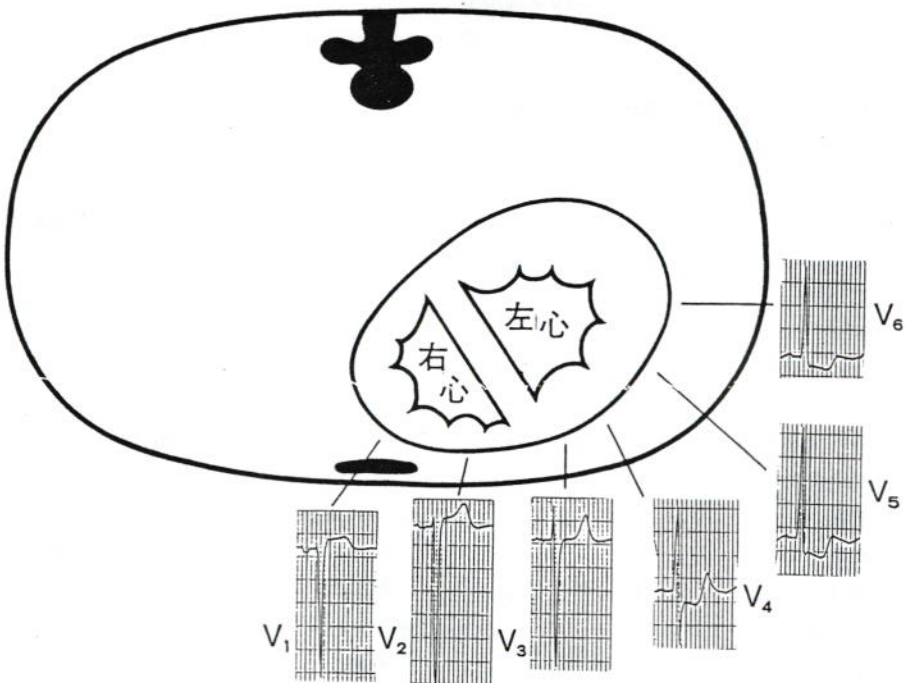
3. 酵素 (CPK)

正常値の5割増し程度は上昇し得る

II, III, aVFのST, T変化は 心室下壁の変化を示す



ST, Tの変化は, 左心室に近い誘導点で顕著 (V₄~V₆)



心筋硬塞

1) 急性死

心筋硬塞患者の過去のデータからみて、硬塞死の40~50%は発症後2時間以内に、75%は発症24時間以内に見られ、生死の勝負は発症24時間以内の早期に決まると見てよい。因に入院(当院CCU)した心筋硬塞患者の死亡率は15~20%である。

2) 危険な合併症

ポンプ不全(特に心源性ショック)
不整脈(特にブロック、心室性不整脈)
akinesis~心室瘤→ポンプ不全

3) 診断

心電図、心筋由来酵素、白血球、赤沈など。
硬塞巣の局在診断には心電図、心シンチグラム。責任血管の診断には冠動脈造影。
心機能診断には心エコー図、心カテーテルを施行する。

4) 心電図変化の注意

STの上昇とQ波を示すことが典型的で且つ基本的変化であるが、ごく早期にはT波の増高だけを示す。また硬塞の程度、範囲によっては、経過中Q波の出ないこともあり、R波が減高するに止る場合もある。

ST上昇、Q波出現、T波逆転の一連の変化に要する時間は数時間のものから、数週単位のものまで様々で、これは冠血流の停止のつづく時間に関係するであろう。

異常Q波はしばしばT波増高、ST上昇の後に出現するが、初診の時期によっては始めからQ波が出ていることもあるし、壊死の進行程度によっては何日かして出る場合もある。正常時の波形がrSではQS型、RではqR型ないしQr型になりやすい。

5) 心筋硬塞の分類

病期；急性心筋硬塞—大体発症後2ヶ月までのもの

陳旧性 “ —発症後2ヶ月以降のもの

範囲；貫壁性硬塞、散在性硬塞、心内膜下硬塞、

部位；(硬塞部位) (Q波)

前壁	$V_1 \sim V_5$
前壁中隔	$V_1 \sim V_3$
側壁	$I, aVL, V_5 \sim V_6$
高位側壁	I, aVL
下壁	II, III, aVF

後壁

通常十二誘導ではQはな

く、 $V_1 \sim V_3$ でR増高

※下壁と後壁の硬塞は合併しやすく、II, III, aVFの硬塞特徴に伴って $V_1 \sim V_3$ のR波増高の有無に注意する。

貫壁性硬塞 — R波減高あるいは消失ののち、QS波またはQr波となる。硬塞巣周辺の傷害の回復がよくてr波が再出現することもある。

非貫壁性硬塞 — T波増高からST上昇、T逆転の変化過程は貫壁性硬塞と同じだが、異常Q波はなく、R波の減高に止る。

心内膜下硬塞 — 3mV以上のST低下がみられ、Q波は出ないが、心筋由来酵素の上昇がきめ手となる。

6) Q波の鑑別診断

左脚ブロック； V_1, V_2 のQS波形、QRSの幅で鑑別、硬塞合併のこともある。

肺気腫 ; $V_1 \sim V_4$ のQS波形、右軸偏位、肺性Pで鑑別

WPW症候群；I, aVL, $V_1 \sim V_2$ などでQS波、デルタ波で鑑別

7) 死因

入院した心筋硬塞患者では、以前は不整脈死(Vf、ブロック)が多いとされたが、ICU治療の進歩によりこれは減少し、ポンプ不全の重症度に比例して死亡率が高くなる。しかし入院以前の患者では、やはり不整脈死が最も多いと考えられる。

8) 心筋硬塞の応急処置—専門施設へ運ぶまで—

硬塞時の危険な病態としては、心停止を招くものすべてが挙げられる。つまり、心室細動、心室頻拍、房室ブロック、洞性除脈、ポンプ不全からくる心源性ショック、激痛からくる心負担の増加などである。

硬塞と診断されたら発症早期に、

- ① リドカイン、キシロカイン(静注用)の静注(50~100mg)で心室性不整脈の予防
- ② 洞性アトロピンの静注(1.5~2mg)でブロック、徐脈の改善。
- ③ 利尿剤(フロセミド20mg等)の静注、およびニトロール剤の舌下または貼布投与で心不全の軽減ないし予防。
- ④ ノルアドレナリン筋注($\frac{1}{2}$ 筒)でショックの軽減。

- ⑤ 鎮痛剤
 ⑥ 場合によっては副腎皮質ホルモン（ハイドロ
 コーチゾン等）の静注でショックの予防治療な

がなされるならば、その死亡率も非常に減少するであろう。

（取材担当 村山）

提 言

休日準夜診療について

林 實

各市町村単位の休日診療所が開設され始めてから10年を経過しましたが、一般住民の要望は、休日の昼間の診療時間だけでは満足せず、休日準夜、休日夜間、羽村町では平日の準夜帯の診療も始まろうとしています。私達医師の労働時間は、世の流れとは逆に増加してきているように思えますが、交代による当番制度は従来の24時間勤務体制とは異なり、仕事の時間と余暇の時間が区別され、生活の中断がなくなり、効率良く仕事、趣味、勉学に励めるメリットもできました。

小生も殊勝にも準夜の参加を考えたことがあります。東部ブロックの休日準夜の参加をみましたら僅か8名だったのです。これを知ったら恐ろしくて参加は出来ないのです。2ヶ月に3回近く順番がまわってくるのです。このブロックで大々的に参加者を募ったこともありますが、結局増えませんでした。皆んなこの参加人員を知らされ、協力しようという勇気も、いっぺんに消え失せたのです。ところで参加人員も多く、『年1回でも良いから』と協力を依頼すればほとんどの人が引き受けて下さるのではないのでしょうか。

年令や健康状態、更に住宅と診療所の分離など、各人勤務条件を異にしておりますので、可能な範囲内で参加していただければ良いのです。東部ブロックでは内科系を標榜する医師は42名います。年間休日数60数日としますと、1人平均年1.5回位にしかなりません。

それで参加協力者の要請を以下の如く提案致します。

- (1) 年1回参加者
- (2) 年2回参加者
- (3) 年3回以上希望者

従来参加していただいた方は、休日準夜帯の診療に熱意もあり、労働条件も恵まれている方と思いますので、年3回以上の参加を続けられますよう希望します。

医師会活動は出来るだけ全員参加で、応分に負担し合い、助け合うことが、会員の一致団結した精神を育て、行政や住民からも真の信頼を得、マスコミの医師攻勢も柔らぐことでしょう。



文 芸

風 庭 隅 の 靡 き エ ゾ 松 又 強 靱 き 性 よ し	蓮 翹 施 肥 に 雪 柳 答 う る 庭 咲 の 花 々 咲 く	リ ビ ア に テ 又 の 々 爆 撃 験 ぎ あ り 報 道	若 き 子 等 の 自 殺 の 報 道 異 型 の 如 く に り	ス エ ー デ ン の と は 異 型 の 如 く に り	空 に 立 つ 秀 先 き に 輝 や ふ て 見 ゆ	大 空 の 雲 の 動 き を 今 日 程 に	意 織 失 せ 老 記 者 の 尚 呼 吸 続 き じ つ と 見 つ む る	日 曜 の 風 の ど よ も す 昼 さ が り	保 険 事 務 終 り て ほ つ と 吐 息 し つ つ	見 上 ぐ る 空 は 澄 み て 明 る し つ つ	「四月所感」 小泉新策
--	---	--	---	---	--	--	--	---	---	--	----------------

パンパン物語 (その3)

アメリカへ渡った戦争花嫁 青梅市 近 藤 肇

『ミズリー州だとか、ネブラスカ州なんかの田舎の砂漠みたいな所へ行っちゃって、そのG Iの家は貧乏でさあ、親とはうまくいかず、その土地のアメリカ人からジャップと馬鹿にされて、どこへ行くにも行けないで、毎日泣いているというのなんかザラよ。』

『日本へは勿論、帰れず、ロスにもシスコへも出るだけの金は無し、乞食にでもなっているの、いるらしいわよ。』

ブランデーグラスを口に付け、チビリとやりながら、私は彼女の話の色々と引き出していた。

『私なんか良い方よ。ベーカーズフィールドって言う所の近くの田舎だけどさあ、ここから、北へ、そうね、150マイルぐらいかしら、だから、ロスでこうやって働いてるけどねえ。』

ロスアンゼルス、リトル・トーキョーの何とあったか忘れたが、〃ナニワ〃とか〃ヤマト〃とか言う飲み屋である。カウンターを隔てて、私は、その女と興味をもって話し込んでいた。

昭和28年の5月1日だった。

都ホテルの前の、イースト・ファースト・ストリート¹の向い側の角のドラッグストアの前で、ボストンマラソンで優勝しての帰国の途中の山田敬蔵氏に会った日であるからである。

これは、その日の夜である。

日米時事の社長に案内されて、大川 博氏と一緒に3人で飲んでいた。

大川 博氏は、当時、大泉スタジオといったが、後に東映と名を変えた映画会社の社長で、その後、プロ野球フライヤーズのオーナーともなった。

『私はお宅の株主ですよ。一株23円の公募株を買っていますよ。』

とか言って親しみを感じで話を交えていた。

『張りきって毎日歩き回ってるそうだが、疲れて病気になるよう……』

大川 博氏は聞いたのであろう、感心したように言う。

ロスについてから、朝寝坊の私が、良くもこう

続くものかと、自分でもビックリしている。

—昨日は、隣の町のパサデナから夜遅く帰り、現地の日系新聞に連載する原稿を15枚も徹夜で書いたり、昨日は、Cathey Centre School というアメリカでは珍しくない女性が校長の小学校へ行き、朝の始業時から、午後3時まで見学して、それから、ロングビーチの油田地帯へ行ってきたし、今朝は、2世のドクターがアattendしている病院で手術をするというので、午前6時に出かけて、午前7時から手術を見学し、それからカイザーファウンデーションホスピタルという、健康保険会社であるカイザーファウンデーション財団(Kaiser Foundation Ltd)の経営する、最近完成したばかりの病院を見学に行き、また、その民間健康保険の組織の実態についてについて調査した。

『カイザー・ファウンデーションの病院で印象に残ったのはですねえ……』と、私は、横の大川博氏にこの病院の印象として、

「お産した産婦の病室が、ガラス窓のついた壁を隔てたナースルームから、相互に引出式に自由にベビーケースを出し入れ出来て、母親もナースもいつでも自由にベビーをケアできるという形式になっていて、これは、母児を別にする母児異室でなく、母児同室制の試みのモデルであること。

「面会人は病院の内部を通ることなく、外から回り廊下式に出入り出来る…」などユニークな施設について話した。

✪ ✪

今回の旅行は、3つの目的があったものだった。

その1つ

東京都地方教育委員会連絡協議会の代表として、世界各国の教育事情の視察というものであった。

前年の27年10月。

日本で初めての、全国統一地方教育委員選挙があった。

青梅市の議会を始め各階層は、全市を上げて、あらゆる団体を利用して、保守勢力を結集して、好ましくないと彼らが考える人間の、当選を阻む態勢を作った。

全市を四つの地域に分けて、各地域から最も市民から支持を得られる人物を候補者とし、教育委員の4議席独占を計った。

全国初めての選挙、新聞は各地の動きを報じて

いた。新聞で青梅の動きを見ていた私は、ボス支配の打破をしなければいけない、また、市民の良識を目覚めさせなければいけないとして、立ち上った。

ほかに革新をバックに共産党系から1人立候補したが、この選挙において、青梅市の支配階級の敵は私だった。

私は徹底的な街頭演説。当初、選挙事務所には人は集らなかった。トラックに乗る人も少なかった。

推薦側は、町内会組織を中心として、隣組単位の結末。

『自分の地区の候補者にいたいのがいなかったら、ほかの地区の推薦の誰に投票しても良い』『他地区のものにも投票しなくなったら、共産党系の候補者に投票したって良い。近藤にだけはいれるな。』

という、選挙で、連日、新聞は紙面を賑わした。『推薦対非推薦の対決』これは、新聞が作ったフレーズであった。

し烈な、青梅市の歴史に前にも後にもないだろうと言われた選挙だった。

私は、勝利を収めた。ときに、36才。

こうしたことがあって、この旅行となったわけである。

✪ ✪

目的のその2。

全国保険医団体連絡協議会の代表として、世界各国の医療事情の視察であった。

この全国保険医団体連絡協議会というのは、今の「保団連」である。

私が、「保団連」に関係した、いきさつというのはこうだ。

徳田球一と喧嘩して、共産党を去ったあとと社会党から衆議院議員となった大田典礼氏が、次の選挙では、こんどは、労農党から立候補して敗れ、次いで、京都府の知事選で蜷川虎三氏に敗れ、「政治は止めた」

と京都から出てきて、東京の代々木の初台に住居を構えた昭和24年、私は大田典礼氏と避妊リングが縁で知りあい、意気投合して、学会や産科医マスコミに抵抗してリングの普及運動に熱心に取り組んでいた。

昭和25年になり、健康保険の単価やそのあり方

(12)

などの問題が、医師会で大きな問題になりかけた頃、大田典礼氏は、東京と関西を往復して、あちこちの医師会で、この問題でブツブツしていた。私は、かなり影響を受けた。

私は、昭和26年の12月の保険医総辞退をかけた全国運動では、日比谷や日本青年館の壇上で大演説をしたりもした。五日市の小泉新策先生が、

“あの時、君は”

などと、よく、回顧話をされるが、私は忘れていた事が多い。

その大田典礼氏が、東京で保険医協会を作るといので、私は参画したのである。大田典礼氏は、マルクス理論を信奉し、唯物論者であることに変わりなく、一方私は、民主主義的改良主義であり、非宗派の宗教を尊重する立場であり、思想的には水と油であったが、大田典礼氏と気脈通ずるものがあつた。だから、お互いに平行線となる議論もあつたが、ついこの間、亡くなられるまで親交を続けることが出来た。

そういう事で、私は東京で保険医協会を作ることになり名を連ねた。

氏が産婆役となり、氏の人脈で集った人達は、まず左翼からは、銘荊 進氏・奥山孝門兄弟・池内達郎氏（何れも慈恵）・北川和男氏（慶応）等で、共産党員であるとされている医師。

その他の人々としては、朝鮮の京城から引き揚げてきた、世田谷の菅 総治氏・蒲田の本多氏、日本医師会の代議員の埼玉の大畑氏、地区医師会役員をしていた人々として、江東の方では宇野氏・開田氏、品川の岡本 丈氏、日野の花輪音三氏というところが主メンバーであり、私を含めて保守中道といったところ。

事務局の中心職員は、どうしても、左翼の人間ということになる。今でも残っているが。

その時、関西では、既に保険医協会が京都と大阪で結成されており、その指導者は、大阪では桑原康則氏（耳鼻科）、京都では中野信夫（眼科）、共に、大阪の医専時代からの左翼の仲間であつた。

関西のその後の発展は、東京が保険医協会はアカだということがどこの医師会にも知れていたので、10数年前までは組織率は悪かつたが、関西は早く発展し、特に京都では、革新知事の下で、保険医協会会員でなければ”人に非ず”とまでになり、保守層である医師会を革新的にしてしまった

ほどであつた。

こうして、東京保険医協会を発足させ、全国保団連も出来た。

会長には、菅 総治氏、保険医新聞の社長には私。

私は、日本医師会や東京都医師会とは対立しない団体として、保険医の為ということに的を絞った非左翼の中立団体にしたいと努力し、西多摩の会員の半分ほどには、新聞の読者になって貰えた。

昭和30年、私は、保険医協会から身を引いた。

理由は、私の努力にも拘らず、左翼団体としての性格を弱めることが出来なかつたからである。また、共産党系の医療関係の団体たる、民医連・患者同盟・新日本医師協会などの参加がなかつたら、何をやっても成り立たなかつた。

当時の、左翼の職員は、最近も、引き続きこの会でやっているようだし、各地区医師会のオルグにも左翼の人間が活動していることは、三多摩担当の民青らしい青年に会って知つた。

✳

✳

旅行の目的の、3つ目は……

8月17日から22日まで、ストックホルムで開かれる、世界家族計画会議に日本代表として出席して、日本の状況を報告し、同時に、私の立場でリングについて発表することである。

また、その序いで、8月23日からの、コペンハーゲンでの世界連邦世界大会に出席することでもあつた。

✳

✳

この文は、こういう私の旅路での、エピソードである。

『ところで、きみは立川にいたんだって…』

『そう、1949年に来たのよ…』

『そうか、……実は、青梅でねえ、“かおる”という名の女（こ）がいてねえ、昭和25年だから、1950年だね、G Iと結婚してアメリカに行ったのを知っているんだよ……。きみ、青梅の方からの女、知らないかね。』

『入間のジョンソン基地にいたというのがねえ先生、フレスノの方にいるって聞いたことあるわ……。』

『フレスノねえ。僕、行く予定なんだ。あの辺は中部カリフォルニアの穀倉地帯で、農業移民の中心地で日系人が多い。』

青梅の西分のキリスト教会(跡地は、今の電話局うらの駐車場)にいた井上牧師が、フレズノから60マイルほど東のダイニューバという町にいると聞いていて、その辺のいくつかの町を訪問したいと思っていたから、フレズノなんて、普通の日本人はその名を知らないけれども、私には親しみある名前であった。

『あとは、そうねえ。佐世保の人……座間……。えーと、あの人、どこだったかなあ、ああ、小牧基地だったかしら……。』

『きみ、郷里(くに)はどこ……ああ、水戸か……。その〃かおる〃って女(こ)ねえ、山梨県だよ。春日部だとか言ってた。』

パンパン出身者のアメリカ人妻は、決定的に不幸になる要因がある。

その理由の1つ。英語が出来ないこと。

その2。G Iの社会的地位が来てみて、想像以上に低いことにビックリする。

その3。人種的偏見が強いこと、特に田舎はひどい。

なつかしの、基地の街にいたという女に会って、ロスの一晩を飲めない酒で過ごした。

イースト・ファースト通りの角の都ホテルに帰り、ややあって、ドアをノックする音がした。

デブプリした大きな、目だけ白い、黒人の女が、ニヤッと笑って、ドアの外に立っていた。

『Oh! No』 慌てて、ドアを閉めた。



シカゴでは、戦時中アメリカ兵に対する日本の放送、トーキー放送の、アナウンサーをやっていたというので、反逆罪に問われて、市民権を剥奪された、2世の、〃ローズ・戸栗〃の親に会うために、戸栗グロッサリーという雑貨屋を訪ねて、その帰り、汚い町のシカゴではあるけれど、ここは素晴らしいと言えるミシガン湖畔に出た。湖畔は、湖畔に沿って長く広い公園になっていて、ベンチに憩うと雑踏から開放されたような気分になる。

少し黒っぽい男と並んでベンチに腰掛けている東洋人、どうも日本人らしいので、話し掛けてみた。『Excuse me, may I say……』

こんな調子で私はいつも、町で話し掛ける。

私はパンパンだった女に会ってみたいと思っていた。いや、パンパンなどという言葉はいけな

アメリカでは、彼女達の事を戦争花嫁、軍人花嫁と呼ぶ。

この東洋人、その男と日本で結婚して、アメリカに来た日本人であった。これも、一つの戦争花嫁ではある。パーティーで知り合ったんだそうだ。

『ジカゴに、G Iと結婚して来ている日本の女の人を知っていませんか。』

『いるらしいけど、知りません。領事館にも行って聞いてみたら……。』

彼女のアドベイスで領事館に行ってみた。

『いるらしいけど、知りません。日系のシカゴ新報にも行って聞いてみたら……。』

と、領事館での返事。

そして、日系のシカゴ新報の社長に案内されて、隣の州のインディアナ州へ車で向った。

『ドクター、タバコ買うなら州の境を越えてからにしないで。』確かに安かった。州によってTax(税金)が違うからである。

インディアナ州のプリマスに、戦争花嫁がいるという噂で出掛けたが、見つからず、むなしくシカゴへ引き返した。

彼女たちの多くは、日本人とは接触しない。不遇をかこって悶々の生活を送っているようである。だから、なかなか日系人社会には分らないという。

ニューヨークでニューヨークの、プリンス・ジョージ・ホテルにある、ミヤザキ・Travel Agency(旅行社)で、日本人妻が働いていた。

日本女子大出身の女だった。その名は〃カズコ〃。ご主人は、コロンビア大学の先生だとか。

東京で知り会ったのだそうである。

彼女には、236丁目のハーレムの、ゴキブリでマンジリとも眠れなかった1泊2ドルの安アパートを経験させて貰ったり、やはり2ドルで、便所の前のドアが無く、しゃがんでらめっこの、YMCAを紹介して貰ったりして、泊り歩いた。

彼女の愛の巣で、お茶のご馳走にもなった。

ニューヨークから先の、飛行機、ホテルの手配では、勿論、彼女に世話して貰った。帰国に向っての1カ月半のコースである。

ロンドン・パリ・アムステルダム・ブリュッセル・ドイツ国内各地の旅・コペンハーゲン・ストックホルム・スイス国内の旅・イタリー国内・インド・バンコク・マニラというルート。

こうして、9月下旬、6か月の旅から、無事、

(14)

日本に戻った。

✪

✪

追加を書く。

残念だったこと。

ローマで、案内してくれた、ローマ大学の日本の女子留学生が、ホテルの部屋に夜、訪ねてくれて、いつまでも帰らなかつた。あのまま帰してしまつて、彼女を失望させたのではなかつたかしら。なんかして上げれば良かったかも知れない。

恥しかった事。

8月18日の夜、ストックホルムの公使館での、堀内公使主催の、オスローから到着した皇太子殿

下歓迎のカクテル・パーティーで、侍従の許しを得てはいたが、カメラを持って殿下のまん前でストロボたいたりして、写真を撮りまくり、

『近藤君、もう、いい加減にしたらどうですか。』と、皇太子殿下の教育係の、あの小泉信三先生に、気品のある、穏やかにして、しかも、威厳のある、お言葉で、たしなめられたこと。

だが、楽しい、実りある、人生2度とない旅行だった。

(終)

前々号その一、誤植訂正 (誤) 首実験

(正) 首実験

理事会報告

3月臨時理事会

昭和61年3月12日(水)7:30 P. M~

西多摩医師会館

議事録署名人 { 東 理事
木野村理事

議題1. 昭和60年度定時総会における一般選挙管理事務

- 大塚総務部長より役員選挙立候補状況説明あり(江本、大塚、堀田立ち合い)

会長候補1名(定員1名)

副会長3名(" 2名)

理事8名(" 12名)

互選理事3名(" 3名)

監事3名(" 3名)

医道審議委員9名(定員9名)

議長1名(定員1名)

副議長2名(" 2名)

病院理事1名(" 1名)

- 理事欠員のため定款52条3項を適用し、総会前日まで立候補締め切りを延期
- 立候補者一覧表記載および掲示順序について

2. その他

- 阿伎留病院増改築計画について
- 喘息教室(都衛生局)について
- 三公立病院伝染病棟統合について
- 奥多摩病院移転に関する要望書について

- 都医調査部宛各地区医師会調査項目報告

— 以上 —

このあと医政連報告あり

臨時理事会 3月19日

議題 理事選挙立候補者欠員(3名)について

3月21日(祭日)まで受付を延期する。

60年度定時総会 3月22日(土)西多摩医師会館

移動理事会 3月29日(土)蛙沢ガーデン

報告事項

都医地区医師会長協議会・三多摩ブロック地区
医師会長協議会報告(瀬戸岡会長)

医師会日誌

退会会員

氏名 岸 拓三

勤務先 福生病院

氏名 酒井英樹

勤務先 阿伎留病院

氏名 浦上達彦

勤務先 阿伎留病院

氏名 金井洋一

勤務先 阿伎留病院

氏名 天野繁三郎

勤務先 梅園病院



関東医学検査研究所

本社研究所 埼玉県所沢市岩岡町281-58

TEL. (0429) 23-7272 (代表)

東京営業所 Tel(03)979-3261 西東京営業所 Tel(0425)65-0072

特殊検査のルーチン化を目指す

主要検査項目

内分泌機能検査
 生化学検査
 薬物検査
 微量金属代謝検査
 免疫血清学検査
 ウイルス検査
 血液学的検査

関東医学研究会グループ

関東医学検査研究所 埼玉県所沢市岩岡町281-58
 埼玉臨床検査研究所 埼玉県鴻巣市天神三丁目673
 群馬臨床検査センター 群馬県前橋市六供町1360-1
 東京臨床検査研究所 東京都板橋区徳丸4-14-18
 セントラル・ラボラトリー 東京都中央区日本橋兜町12-7

臨床検査センターの雄

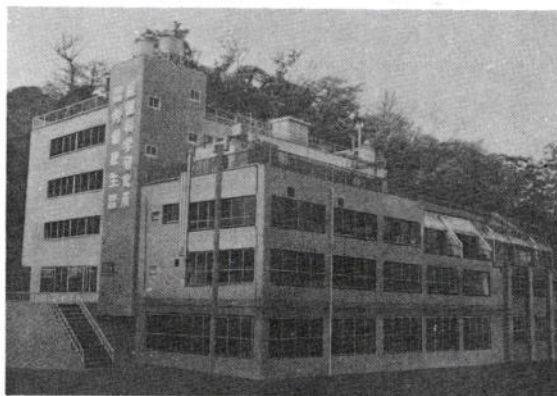
保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106

電話 045 (333) 1661 (大代表)

八王子市子安町3-17

電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データー通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
 - 内分泌学検査 ● 免疫学検査 ● ウイルス検査 ● 生化学検査 ● 血清学検査 ● 血液学検査
 - 病理組織検査 ● 細胞診検査 ● 重金属検査 ● 水質検査

1都11県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。